

日本生協連、創立75周年

歴史継承、社会的発信、感謝と対話をテーマに様々な施策を実施 ～地域共創や若者市民団体との協働プロジェクト、小学校などへのまんが寄贈など～

日本生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、代表理事長：新井ちとせ）は、2026年3月20日に創立75周年を迎えます。これに先立ち、「つながって、つぎへ」というコンセプトに沿った対話企画やこれまでの歴史を振り返る動画を掲載した「創立75周年記念特設サイト」を2026年1月13日（火）に公開しました。

☆創立75周年記念特設サイトURL：<https://jccu.coop/jccu/history/75th/>

日本生協連は今年、「歴史の継承」「社会的発信」「感謝と対話」の3つをテーマに、特設サイトでの発信や記念書籍の発行など、年間を通して創立75周年記念事業を実施します。

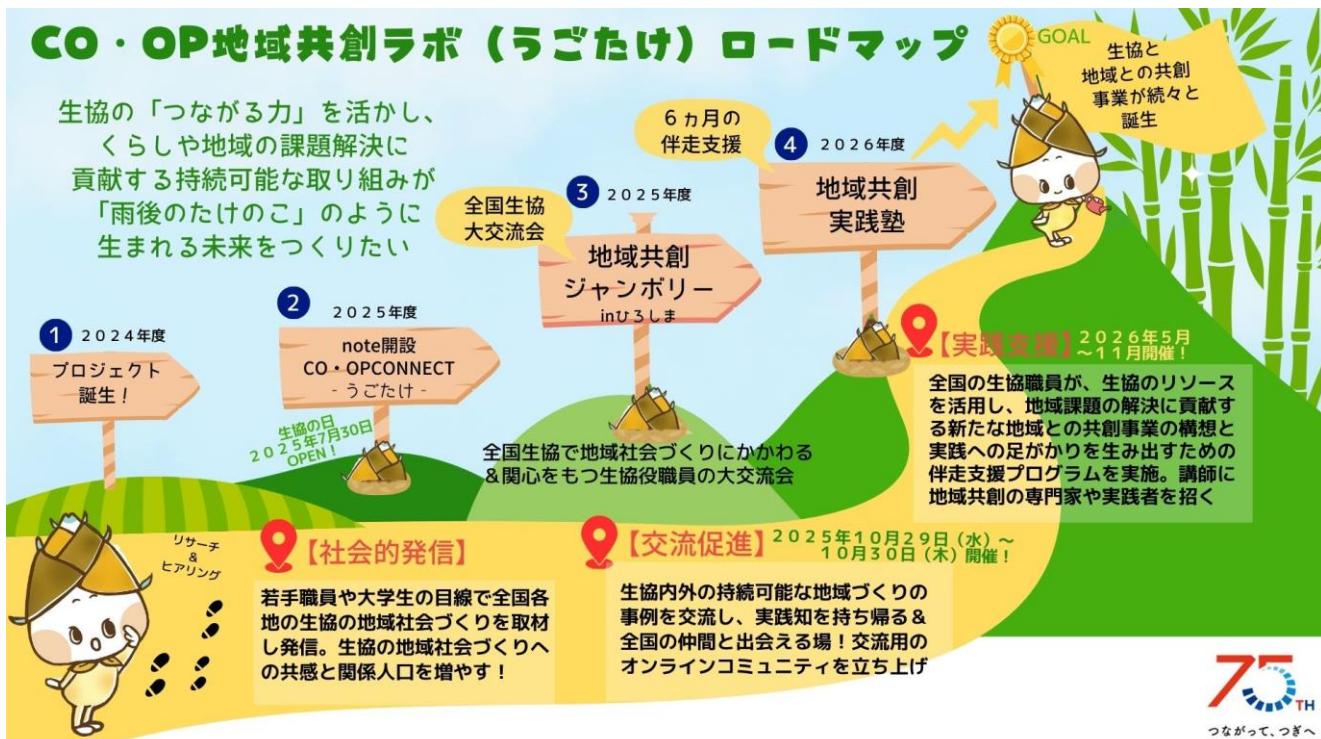
創立75周年記念事業 主なコンテンツのご紹介（一部）

●「CO・OP地域共創ラボ」（通称：うごたけ）

2030年ビジョンで掲げた「安心してくらし続けられる地域社会」に向けて、全国生協の取り組みを応援・発信する「CO・OP地域共創ラボ」（通称：うごたけ）を始動します。以下の3つを目標に活動ていきます。

- ①交流促進：全国生協の地域社会づくりや地域課題の解決に関わる役職員が交流し、応援・相談し合える関係づくりを促進します。
- ②実践支援：「安心してくらし続けられる地域社会」に貢献する生協と地域との新たな共創事業のプランと、その実践への足がかりを生み出すことを支援します。
- ③社会的発信：全国生協の地域社会づくりの実践を、未来を担う世代とともに発信していきます。

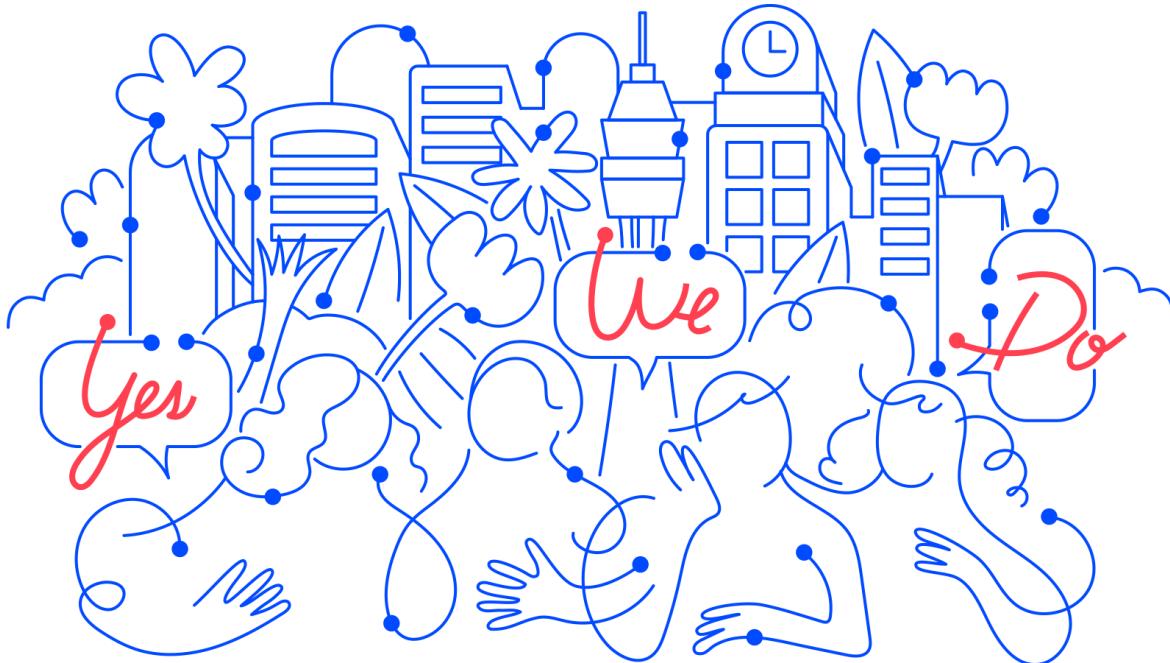
サイト：<https://note.com/coopconnect>



●「WE CO・OP-協同組合を再発見-」

協同組合の価値を再発見していくため、一般社団法人NO YOUTH NO JAPANと、KNOW NUKE TOKYOという2つの若者市民団体との協働プロジェクト「WE CO・OP」に取り組んでいます。全国の協同組合の実践を、U30（30歳以下）世代が発信するとともに、若者市民活動の中間支援や協同組合とのつながりづくりを行うことで、これから社会を市民の参加でよりよいものにしていく、その手助けとなることをめざしています。

サイト：<https://wecoop.jp/>



● まんがでわかる「生協」

生協の役割や特徴を分かりやすく伝えるため、「学研まんがでよくわかるシリーズ」として、『生協のひみつ～つながり、ささえあう、みんなのくらし～』を制作しており、5月頃より、全国の小学校・特別支援学校・公立図書館をはじめとした施設約24,000か所へ寄贈する予定です。

●感謝イベント

総会代議員を中心とする会員生協役職員に、あらためてコーポ商品をはじめ全国の生協とともに取り組む今のこと事業・活動を知っていただく場を企画する予定です。75年間にわたり日本生協連を支えていただいたことに対する感謝の気持ちをお伝えとともに、日本生協連への親近感とオーナーシップを高めていただく場とします。メディアの皆さん向けにも別途ご案内いたしますので、ぜひご取材ください。

日程：2026年6月18日（木） ※第76回通常総会・記念式典の前日

会場：渋谷コーポプラザ

対象：総会代議員を中心とする会員生協役職員

内容：全国でともに進める事業や活動の体験・紹介

日本生協連は、今後も組合員のくらしに寄り添いながら、全国の生協とともに助け合いの組織として、誰もが笑顔で暮らすことができる持続可能な社会の実現を目指してまいります。

＜お問い合わせ先＞
日本生協連広報部
TEL：03-5778-8106

<ご参考>

● 創立75周年記念のロゴとコピーについて

【ロゴ】



これまで私たちは様々な課題や社会的な問題解決のために、組合員・生協・取引先などと「つながる」ことで、一步一步みらいを切り開いてきました。日本生協連75周年のロゴとしてこれまでの歴史や取り組みを継承しながらみらいに向けて一步一歩上っていく螺旋階段のイメージを表現しました。

【コピー】 つながって、つぎへ

● 創立75周年記念事業の3つのテーマと目的

日本生協連は創立75周年となる今年、「歴史の継承」「社会的発信」「感謝と対話」の3つの目的に沿って、年間を通して創立75周年記念事業を行ってまいります。

歴史の継承	全国の生協と日本生協連の歴史をまとめ、次世代へ継承します。これまでの歴史を振り返りながら、今後の生協運動のあり方を考える機会とします。
社会的発信	未来に向けて、持続可能な社会づくりに貢献していく生協の姿を社会的に発信します。
感謝と対話	生協に関わるすべてのステークホルダーに感謝の意を表するとともに、若い世代を含めて幅広い人々との対話の機会を設け、つながりを広げます。